神によるスンナの保持（4/7）：イスナ ドの保持

：

明:

以下では、 言者ムハンマドの教え すなわちスンナ が 史を通していかに改 や修正から守られ、その信 性を保ち けたのかについて 考します。第4部：イスナ ド言及の 践、そして初期から行われてきたその保持について。

目: 事 言者ムハンマド彼の言 に して

より: ジャマ ルッディ ン ザラボゾ (2011 IslamReligion.com)

日20 Jun 2011

集日 20 Jun 2011

フラ タは、 承者がそれを く者によってイスナ ドの言及を いられた件について、 言者の死 わずか2年 に亡くなったアブ バクルこそが、 承者がその 承の信 性を 明するよう最初に命じた者だと述べています。なぜかといえば、 々彼はハディ スの 人を提示しない限り、それを めなかったことがあるからです。ウマルも同 、それに っています。そうすることにより、 承者が に 言者からその言 を直接 いたのか、または仲介者を通してだったのかを することが出来たのです。彼らの目 は 承の信 性を することであり、 承者にハディ スのイスナ ドを明言させていました。そのため彼らの 代（ 言者逝去直 ）に、 承者たちはイスナ ドの明言を 付けられたのです。第四代目正 カリフであり、フィトナ（ ）の代の当事者だったアリ は、 言者から直接ハディ スを いたと誓った人物に誓 をさせたほどでした。したがって明らかに、フィトナの は 承者がその典 を述べるという同じ手 が踏まれるようになったと るべきでしょう。[1]

フラ タは、 承者自身がハディ スのイスナ ドを主 し始めた 期について、根 の弱い 承者と不道 な人々がハディ スを え始めたことから、イスナ ドの必要性が明白になったと述べています。その 代からは、 承者自身がハディ スのイスナ ドを に言及するようになったのです。アル＝アァマシュはハディ スを 承する に、“ここからが重要な部分だ”

と言ってイスナ ドに言及しました。シャ ム地方出身のアル＝ワリ ド ブン ムスリムは述べています：“ある日アッ＝ズフリ は言った。「ハディ スの最も重要な部分について言及しないあなたたちは、一体どうしたというのですか？」その 、我々の教友たち（つまり、アラビア半 北部シャ ム地方の人々）はイスナ ドを に言及するようになったのだ。”[2]
また学者たちは、イスナ ドなしにハディ スを教える教 から学んだ彼らの生徒たちを叱りました。[3]
彼らはイスナ ドが付属しない全てのハディ スを拒否したのです。バハズ ブン アサドはこう言っています：“「彼は私たちにこのように えた」と言わない者からハディ スを受け入れてはいけない。”
それはつまりイスナ ドのことを指しています。教 のあるムスリムたちは、たとえば 史やタフスィ ル（クルア ン注 学）、または など、ハディ スとは ない分野でさえもイスナドを求めるようになったのです。

それによって、この についての を じたフラ タは、次のような に行き着きました：

１．イスナ ドは、教友たちの 代から使用され始めたこと。

２． 承者がその典 を述べるよう最初に命じたのは、アブ バクルであるということ。

３．上 を踏まえ、 承者自身も各ハディ スに付属するイスナ ドの言及に を惜しまなかったこと。[4]

を言うと、ハディ ス 承者がイスナ ドを全く言及しなかった 代はなかったのです。教友たちの 代においては、 承者と 言者との に仲介者が（通常は）存在しなかったため、イスナ ドの使用ははっきりとしたものではありませんでした。（教友たちの 代は、ヒジュラ 110年に最 の教友の死をもって「公式に」 わりました。）アブ バクルとウマルは、ハディ スの信 性を入念に していました。 に れたアッ＝シャアビ やアッ＝ズフリ などの学者たちは、ハディ スと共にイスナ ドを言及することの重要性をムスリムたちに させました。この 向は、大 模な 力の出 （そしてウスマ ンの暗 ）によって、人々がハディ ス

承は宗教そのものであると　した に特に 著になりました。それゆえ彼らは、自分たちの宗教の源泉となるものの受容に非常に を遣ったのです。初期以降はイスナ ドの 切な使用が　化され、その知 はハディ ス学として独立しました。これは、ヒジュラ 3世 に有名なハディ ス 集が 纂されるまで いたのです。[5]

に、元来の教えの保持ということにおいて、神はイスナ ドの使用という独自の方法でムハンマドの共同体を祝福しました。ムハンマド ブン ハ ティム ブン アル＝ムザッファルは いています：

> “ に、イスナ ドによって神はこの共同体に名誉と特性を与え、他者から 立たせたのである。 在と 去において、我々以外にはいかなる共同体も　したイスナ ドを保有していないのだ。彼らは（古代の） 字板を保有するが、彼らの 物には 史的な言い えも入り交じっており、そこからは元来のト ラ 、または福音 による教えと、 世になって追加された信 に しない（または不明な） 承の いとを　することが出来なくなってしまったのである。”[6]

Footnotes:

1. Fullaatah, vol. 2, pp. 20-22.

2. Quoted by Fullaatah, vol. 2, p. 28.

3. Ibid., vol. 2, pp. 28-29. See the stories of al-Zuhri, Abdullah ibn al-Mubaarak and Sufyaan al-Thauri on those pages

4. Fullaatah, vol. 2, p. 30.

5. に、ハディ スの 承にイスナ ドを言及する　はヒジュラ 5年まで きました。それ以降はほとんどがイジャ ザ（学A または本から教えることの出来る免 状のようなもの）として 籍の形で受け がれてきましたが、一部の学者たちは依然

て 言者にまで る 承者 路を述べ ねることが出来るのです。参照：Khaldoon al-Ahdab, *Asbaab Ikhtilaaf al-Muhadeetheen* (Jeddah: al-Dar al-Saudiya, 1985), vol. 2, p. 707.

6 Quoted in Abdul Wahaab Abdul Lateef, *Al-Mukhtasar fi Ilm Rijaal al-Athar* (Dar al-Kutub al-Hadeethiya, no date), p. 18

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/594

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。